

(科目コード : 2001220005MM)

【改訂】第26版(2014-03-25)

【科目】社会政策

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】必修

【学期・単位数】後期・1単位

【対象学科・専攻】機械 5年

【担当教員】加藤 健

【授業目標】

実際に機能している社会政策・社会保障制度の仕組みやその意義を考察することができる。
日本や欧米の社会政策・社会保障制度に関する発想を歴史的に掘り下げることができる。
現在の社会政策・社会保障制度の問題点を指摘することができる。
今後の社会政策・社会保障制度のあり方に対して自分の意見を構築することができる。

【教育方針・授業概要】

- ・本科目の総授業時間数は22.5時間である。
- ・人は、生きていく上で常に健康で順調であるとは限らない。例えば疾病、ケガ、障害、失業、老齢といった様々な危機に直面する可能性がある。このような状況を個人や家族のみで解消できない場合に、どのような社会的な政策や制度を設計する必要があるだろうか。
- ・講義では、時事問題を適宜取り上げながら、社会政策・社会保障に関する基礎的・基本的な事柄について検討していく。

【教科書・教材・参考書等】

教科書は指定しない。

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

講義形式で進める。

【成績評価方法】

[後期]中間試験：40%、期末試験：40%、レポート：20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	日本や欧米の社会政策・社会保障に関する発想を歴史的に掘り下げて考察することができる。	50 %	中間試験20%、定期試験20%、レポートなど10%の割合で評価する。
2	実際に機能している制度の仕組みやその問題点について理解し、今後の社会政策の在り方について自分の意見を構築することができる。	50 %	中間試験20%、定期試験20%、レポートなど10%の割合で評価する。

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】(社会政策)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1回	イントロダクション	現代社会における社会的問題に対する関心を高める。		
2-4回	雇用・労働問題	日本やアメリカの労働政策、労使関係、賃金問題などを検討する。		
5-7回	家族・育児・公共支援	日本における家族の役割や女性の社会進出と育児などの問題を考察する。		
8回	中間試験			
9-11回	格差・貧困問題	貧困に対する定義や現代の内外の生活扶助制度を取り上げる。		
12-15回	高齢社会と社会保障	医療、年金、介護など的高齢社会が直面する問題を検討する。	社会政策に関するレポートの作成	